

コード No. 18825

**Anti-Mouse  
Claudin-2 (C) Rabbit IgG Affinity Purify**

容量 : 100 µg

**はじめに** : Claudin は遺伝子ファミリーを形成する 4 回膜貫通型タンパク質で、細胞膜内で重合しながら細胞間接着能を持つことにより、細胞膜を密着させてタイトジャンクションを形成します。また、同種類間でも異なる種類の claudin 間でも会合します。その構造は、N 末端と C 末端を細胞内に向け細胞外に 2 つのループを持つような形で膜に組み込まれています。基本構造はファミリー間で共通しており、C 末端部分は膜裏打ちタンパク質 ZO-1、ZO-2、ZO-3 の PDZ ドメインと結合し、その分子量は 20-27kDa です。  
Claudin-2 はマウス肝臓、腎臓などに分布することが知られています。

**免疫抗原** : Mouse Claudin-2 の C 端部分合成ペプチド (SSPRSAQQPKAKSEFNS)

**精製方法** : 抗原ペプチドによる特異精製

**包装形態** : 1 % BSA、0.05 % NaN<sub>3</sub> 含有 PBS 1.0 mL に溶解したものを凍結乾燥

**再生方法** : 精製水 1.0 mL 添加(この時濃度は 100 µg/mL となります)

**保存方法及び** : 2 ~ 8 °C 保存 5 年間安定

**安定性** : 溶解後 -20 °C 保存 2 年間安定

**使用目的及び** : 免疫細胞組織染色 約 5 µg/mL にて使用可能 (凍結切片)

**使用方法** : ウェスタン・ブロッティング 2 µg/mL にて使用可能

**特異性** : Claudin-2 に特異的  
Claudin-1, -3, -4, -5, -6, -7, -8 とは反応しません  
(Transfectant を用いたウェスタン・ブロッティングにて確認)

**参考文献** : 1. Chiba H, Kojima T, Osanai M, Sawada N.: The significance of interferon-gamma-triggered internalization of tight-junction proteins in inflammatory bowel disease.: Sci STKE. 2006 Jan 3;2006(316):pe1.  
2. Fujita H, Sugimoto K, Inatomi S, Maeda T, Osanai M, Uchiyama Y, Yamamoto Y, Wada T, Kojima T, Yokozaki H, Yamashita T, Kato S, Sawada N, Chiba H. Tight junction proteins claudin-2 and -12 are critical for vitamin D-dependent Ca<sup>2+</sup> absorption between enterocytes. Mol Biol Cell. 2008 May;19(5):1912-21.